

中学生部門 愛知県最優秀賞

「フォロー」

江南市立布袋中学校 三年

宮川 結斗

僕はこの夏休みに、母の知人で知的、精神障害のある人と一緒に旅行へ行きました。

その人の鞆にはヘルプマークがついていました。母がずっと福祉の仕事をしていてよく障害の人の話を聞いていたのでそれがヘルプマークだとすぐわかりました。

その人は見た目も話していても障害があるようには気がつかないし分かりませんでした。母から聞いても僕と変わりはありませんでした。

しかし、長く一緒に居て行動していると少し違うなど感じる場面がたくさんありました。

僕が気づいたことは、欲しい物を考えずにすぐ買ってしまっていたことに驚きました。

僕でも少し考えてやめておこうと我慢できるのにその人は説明しても納得ができずに色々な物を買ってしまっていました。なので、母がお金の管理をしていました。

他にも、冗談で言った話が本当だと思い込んでしまったり、ほんの少しのことで不安になりずっと引きずってしまっていたり、その時はよくてもその後状況判断ができなかったり、たくさん気づきました。その都度、母がフォローしていました。時には母が先回りしてフォローしている場面もたくさんありました。

母は「子供だったら、自分から気づくまで待ってあげることもあるけど障害のある人だとそれはなかなかできない。その時できてもまた忘れてしまうから。」と言っていました。

僕はこの旅行中その人と居て、見た目は健常者と変わらない人達は障害だと理解してもらえずに、変わった人、面倒な人などと思われ、苦しんでいるのではないかと思いました。

ヘルプマークなど目立つ物をもっとたくさんの人に知ってもらい、障害のことを理解してもらえたら、障害のある人達も生活しやすくなると思いました。

そのためには僕も、障害関係なく誰にでもフォロ

ーしてあげれるように周りを見て人を思いやり、それを行動できる人間になりたいと思いました。

僕はこの旅行がとても楽しかったです。